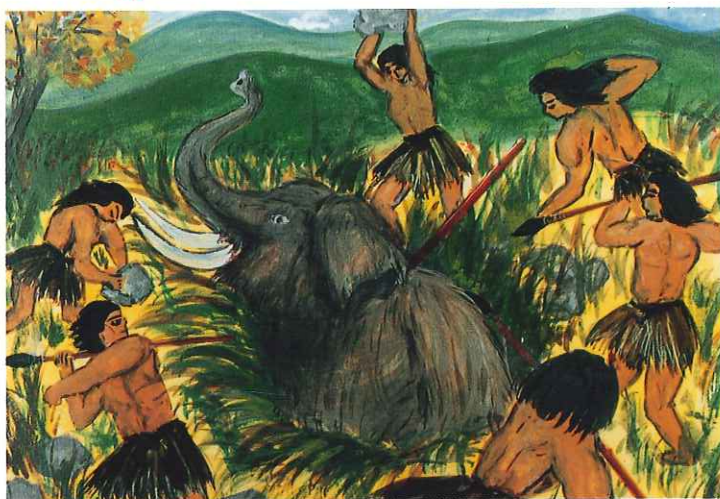
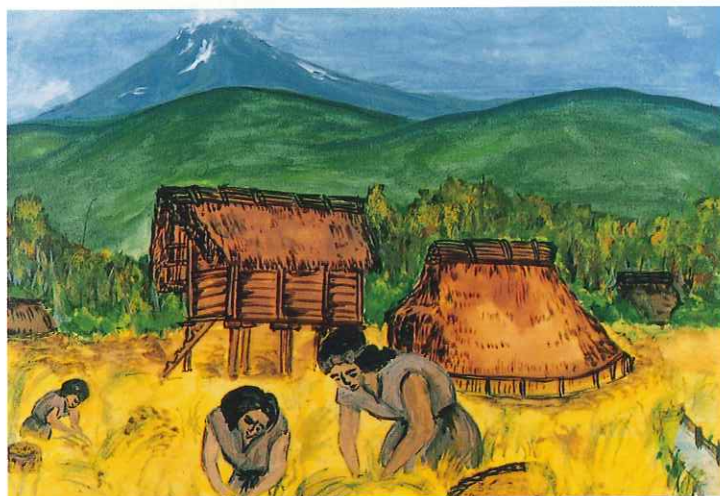


# 企画展

# 三島のあけぼのⅢ



箱根西麓でくり広げられた  
狩猟生活のようす



平野部のサトで行なわれた  
水稲栽培のようす

(想像図)

## ・三島の自然環境と古代遺跡・

人間が居住し、生活を営む場所は、人間の暮らしに対する知恵(文化)の発達と共に変遷してきました。狩猟を中心としていた旧石器時代や縄文時代には、動植物の捕獲・採集の容易にできる山中に暮らしの拠点を置く必要があったし、水稲栽培を行うようになった弥生時代には、水の便が良い低湿地の平野部に村を形成して居住する必要がありました。また、人口の増加にともない村と村の往来や結合が頻繁になると、更に大きな集団が生活でき、かつ情報や物資の流通が便利な場所(町)が人間の居住地として求められるようになりました。

このように、人間は自らの暮らしの変化にその都度適合する良い場所を求めて、時代ごとに拠点を移動してきたものです。その拠点とは、安全で便利で生産性の高い場所、すなわちそうした条件をすべて満たした自然環境のある場所でした。

ところで、三島は古代遺跡の多くあるところとして知られていますが、それは三島という土地が上記してきたような古代の人々の居住条件を備えた自然環境に恵まれていたからです。

三島を地形的な自然環境の視点から大まかに区分すると、次のように三つの地区に分けることができます。

- 1、箱根火山の活動によって形成された箱根西麓の傾斜台地
- 2、富士火山がもたらした溶岩流の末端部分に当る、いわゆる三島扇状地
- 3、三島扇状地の南に広がる狩野川の流れが作り出した平野部

本企画展「三島のあけぼのⅢ」では、三島の三つの自然環境に集中して分布する古代遺跡群から出土した遺物を展示し、それぞれの自然環境の中の祖先達の暮らしぶりを眺めてみました。

# 箱根山麓の遺跡

## ・狩猟民のくらし・

日本人が米を食べ始めたのは二千数百年前のこと。二百万年ともいわれている長い人類の歴史から見るとほんのわずかの間です。それまでの長い間、人間はけものを追い、木の実を集めるなどの狩猟・採集のくらしをしていました。人々の最も重要な道具は、狩猟具である石器でした。この時代を旧石器時代といいます。約一万年前、縄文時代になると、土器が発明され、狩猟具が槍から弓矢に移りますが、狩猟・採集のくらしは変わりませんでした。

現在、三島市で最も古い遺跡は初音ヶ原遺跡といわれており、二万七千年前の石器がみつかっています。また、三島で一番古い縄文土器は、箱根の里のある北原菅遺跡から発見されました。このように、旧石器時代・縄文時代の遺跡はそのほとんどが箱根山麓にあります。大昔から山の幸に恵まれていたこの一帯は、狩猟や採集を食料獲得の手段としていた当時の人々にとって、格好の生活の場だったのでしょう。また、狩猟具である石槍や石鏃をつくる材料である黒曜石の原産地に近いことも、この

地にたくさんの遺跡がある理由の1つに考えられます。

箱根山麓で最近発掘調査を行った旧石器時代・縄文時代の遺跡には、片平山遺跡、観音洞遺跡、小平C遺跡があります。片平山遺跡では、旧石器時代の狩猟具のナイフ形石器、槍先形尖頭器、組み合わせ石器である細石器などがたくさん発見され、狩猟具の移り変わりをみることができます。観音洞では、縄文時代の狩猟民のムラが確認されました。たつた5軒の小さなムラですが、狩猟の道具や木の実を加工する調理具、煮たきをする縄文土器などが多数みつかっています。また、住居跡の中につくられた石の祭壇や吊手土器からは当時の人々のまつりのようすをうかがい知ることができます。小平C遺跡には、住居跡はありませんでしたが、集石炉と呼ばれる縄文時代の調理施設と思われる跡が発見されました。縄文土器は今から約7,000~8,000年前のもので、中には西日本でつくられた土器も含まれており、当時の人々の交流の広さをうかがわせます。

### 片平山遺跡



発掘調査のようす



旧石器時代の石器製作跡



旧石器時代の狩猟具  
ナイフ形石器、石斧、槍先、細石器

# 観音洞遺跡



縄文時代（約4500年前）の祭壇を持つ住居跡



縄文土器



縄文時代の落とし穴

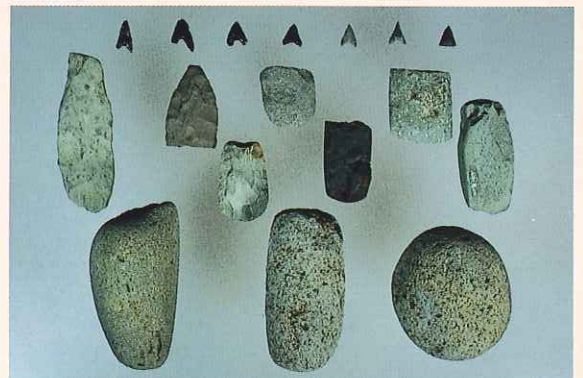
# 小平C遺跡



縄文時代の石むし料理の跡



遺跡のようす



縄文時代の狩猟具、加工具

# 平野部の遺跡

## ・生産とサトのくらし・

三島の平野部は、箱根西麓を水源とした水と三島溶岩の流路末端に湧出する水の両方が流れ込む低湿地であり、豊かな水田地域が広がり、周辺住民の食糧を賄う穀倉地帯となっていました。そこでは稲作を生産活動の中心にすえた平和なサトの住民の暮らしがくり広げられてきました。

このコーナーでは、三島の平野部で発掘された遺跡から、弥生時代から鎌倉時代までの祖先たちの生活を眺めて見たいと思います。三島平野部の遺跡では、上塩辛田遺跡（長伏）、金沢遺跡（中）、御殿川遺跡、桶田遺跡が発掘調査されました。古代の生産活動の中心だった稲作に関する遺物と遺構は上塩辛田遺跡出土の物が圧巻です。弥生時代の後期の水田跡と考えられる遺構からは、田の畔を補強するために使われた150本の矢板、杭が幅80センチ、長さ45メートルにわたって確認されました。また、ここで、畦畔の中に廃棄された古代の農具なども発掘され、そうした資料から古代の農業技術なども検証できます。

人々の暮らしを具体的に想像させる遺跡は桶田遺跡の遺構でしょう。ここで確認された掘立柱建物跡は2×3間の規模をもつ高床式の建物跡で、L字型の建物配置といい、古代の村の屋敷構えが想像できる遺跡です。

古墳時代から平安時代にかけての村や個人の住宅の様子は、金沢遺跡（中）から発掘された遺構と遺物で想像が可能です。37軒の住居跡の何軒かからは、生活のぬくもりを感じさせるカマド跡や日常使われていた土器がはつきりした形で出土しました。

御殿川流域遺跡群からも弥生時代から中世に至るまでのさまざまな遺物が発掘されました。中島西原田遺跡からは弥生時代の掘立柱建物跡とそれに伴う弥生式土器や祭祀遺跡が出土し、八反畑前田遺跡や梅名大曲遺跡からは曲げ物やしゃもじ、下駄など普通の遺跡では発見されない木製の遺物が多数出土しており、中世の生活の匂いを残すこれらの多くの資料から古代人の暮らしを想像してみましょう。

### 上塩辛田遺跡



弥生時代の大きな畔



遺跡のようす（航空写真）



畔に打ちこまれた杭

# 金沢遺跡



古墳時代の食生活の道具



古墳時代（約1300年前）の住居跡



古墳時代のかまど

# 桶田遺跡



掘立柱の建物跡



墨で文字の書かれた土器（平安時代）

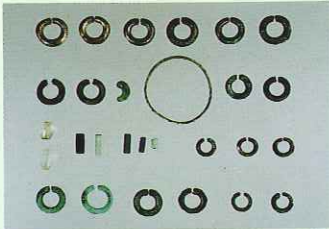


平安時代の住居跡

## 夏梅木遺跡



発掘調査のようす



葬られた人が付けていた装身具

古墳の副葬品の出土のようす



## 御殿川遺跡



曲げ物



古代の護岸跡（杭列）

## 市街地の遺跡

### ・ 行政施設とマチのくらし ・

現在三島の市街地となっている地域では市ヶ原遺跡、上才塚遺跡、三島代官所遺跡等が発掘調査されました。

これらの遺跡からは奈良時代から江戸時代に至るまでの遺物が出土し、この土地が、人間がより大きな集団（ムラからマチとなるように）となって住むために開発され、発展してきた地域であることが確認されました。

市ヶ原遺跡は三島市役所前の道路拡幅工事にともなう調査された遺跡です。ここからは奈良時代の布目瓦や土師器、江戸時代以降の陶磁器や古銭が出土し、遺構では江戸時代の建物跡や屋敷跡、また桜川の水を生活用水とした洗い場跡など、三島の特徴を含んだ遺構が確認できました。

上才塚遺跡は現在の東町にあります。ここからは奈

良時代以降の掘立柱建物跡や柱穴列の遺構、中世から近世にかけての水田跡の遺構と、それに伴う土師器、須恵器、布目瓦などの遺物が発見されました。現段階では、これらの遺構が明確に何かという判定はなされていませんが、三島の古代中世を解明するような重要な遺跡ではないかと注目されています。

三島代官所遺跡は市ヶ原遺跡に隣接する遺跡で、三島市役所庁舎の敷地にあたるところです。発掘したのはその一部でしたから、江戸初期の三島代官所および江戸中期以降の三島陣屋と直接むすびつく遺構や遺物の発見までには至りませんでした。この地が三島代官所であったことは間違いのないことで、資料等からいつか近世初期の三島が明らかにされるものと期待されます。

## 上才塚遺跡



奈良時代の役人が付けていたベルト飾り



国府関連の建物群を区画する大溝

## 代官所遺跡



代官所を囲む大溝



代官所の門の柱の穴

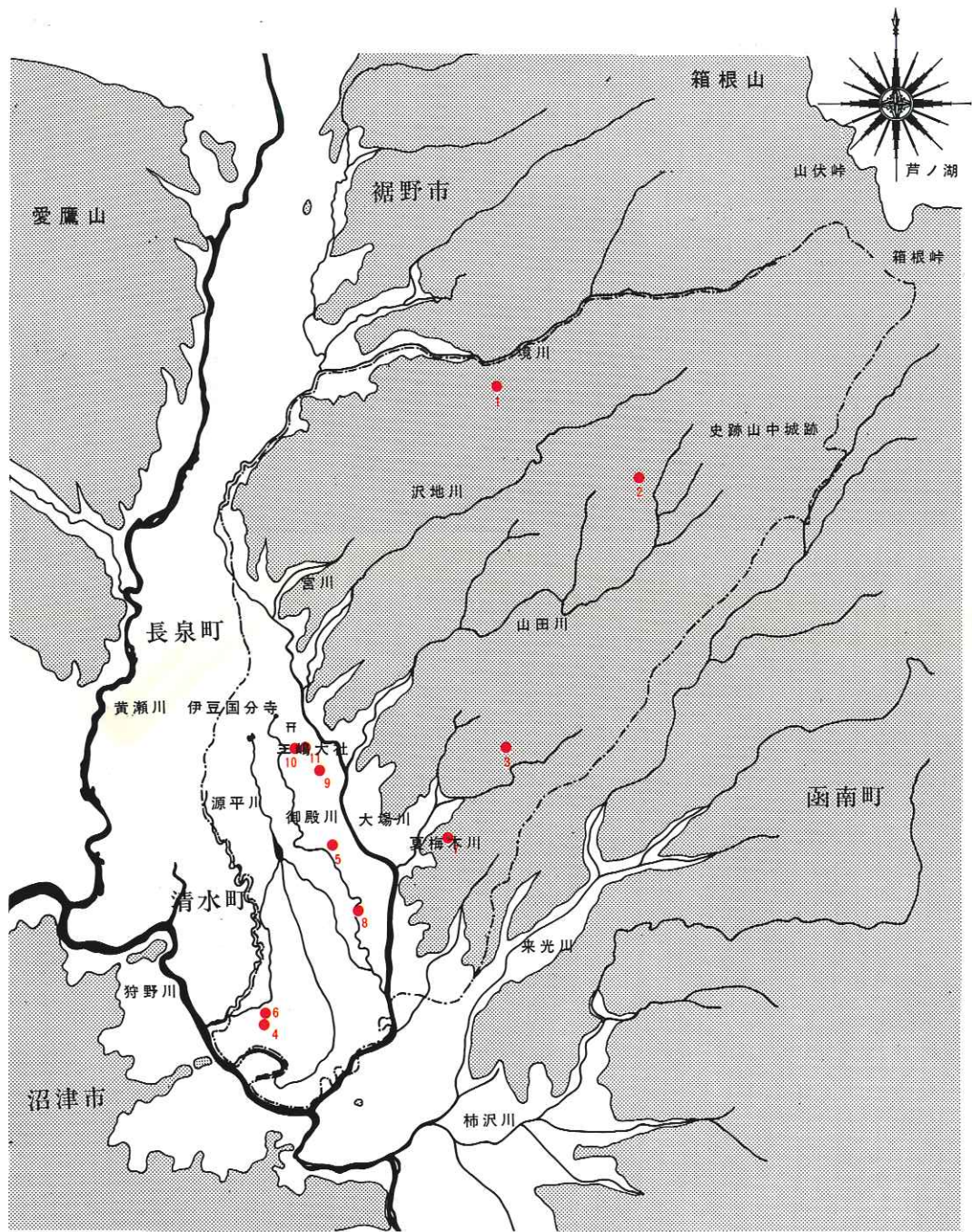
## 市ヶ原遺跡



川端の設備を持った桜川に面した家の跡



江戸時代の日用品  
(灯明具、香炉、食器、煙管)



### 三島市の地形と調査遺跡の位置

- 箱根山麓の遺跡   ● 平野部の遺跡   ● 市街地の遺跡
- 1, 片平山遺跡   4, 上塩辛田遺跡   9, 上才塚遺跡
- 2, 観音洞遺跡   5, 金沢遺跡   10, 三島代官所
- 3, 小平C遺跡   6, 桶田遺跡   11, 市ヶ原遺跡
- 7, 夏梅木遺跡
- 8, 御殿川遺跡

### 企画展「三島のあけぼのⅢ」

・三島の自然環境と古代遺跡・

平成4年3月22日～4年5月31日

三島市郷土館

三島市一番町19-3 楽寿園内

TEL 0559-71-8228